

# 病 院 増 床 事 前 協 議 書

(神戸平成病院)

## 病院増床事前協議書

1. 開設者に関する事項

(開設者が医師である場合)

氏名		医籍番号	
住所		TEL	
開設者が現に病院若しくは診療所を開設管理若しくは勤務している場合には当該医療機関の概要	区分	開設・管理・勤務	
	施設の種類	病院・診療所	病床数 一般療養 精神 結核 床
	名称		
	所在地		
	診療科目		

(開設者が法人である場合)

法人の種類	医療法人社団	設立年月日	平成8年1月29日		
名称	医療法人社団 南淡千遙会				
主たる事務所の所在地	神戸市中央区上筒井通6丁目2番43号 TEL (078) 232-7519				
代表者	氏名	武久 洋三	住所		
法人の目的、事業	『目的』 病院及び介護老人保健施設を経営し、科学的かつ適正な医療及び疾病、負傷等により寝たきりの状態等にある高齢者に対し、看護、医学的管理下の介護及び必要な医療等を普及する事。 『事業』 病院、介護老人保健施設				
法人が現に、病院若しくは診療所を開設している場合には、当該医療機関の概要	施設の種類	名称	所在地	病床数	備考
	病院 病院	南淡路病院 神戸平成病院	南あわじ市賀集福井560番地 神戸市中央区上筒井通6丁目2番43号	170床 95床	
自己資本比率 (医療法人の場合)	10%				

2. 増床の内容に関する事項

(1) 基本的事項

名 称		神戸平成病院	
開設の場所		神戸市中央区上筒井通6丁目2番43号	
増改築予定年月		平成29年8月1日	
診療科目	旧	呼吸器内科、消化器内科、糖尿病内科、内科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、外科、放射線科、婦人科、リハビリテーション科	
	新	変更無し	
病 床 数	旧	95床（一般 95床・療養 床・精神 床・結核 床）	
		病床機能区分（医療法施行規則第30条の33の2）による分類 （高度急性期 床、急性期 95床、回復期 床、慢性期 床）	
	新	100床（一般 100床・療養 床・精神 床・結核 床）	
		病床機能区分（医療法施行規則第30条の33の2）による分類 （高度急性期 床、急性期 44床、回復期 56床、慢性期 床）	
病床の利用内容 (看護単位ごとに)	旧	15室 41床 利用率 95%	19室 54床 利用率 93%
		室 床 利用率 %	室 床 利用率 %
	新	16室 44床 利用率 97%	20室 56床 利用率 95%
		室 床 利用率 %	室 床 利用率 %
増床の理由及び 病床数設定の考え方		基準看護又は新看護の内容	
・提供する医療の内容 ・当該地域の医療事情 ・近隣医療機関との連携等		規則第30条の32第1項の規定による特例	
		有 ( 号 床 ) ・ (無)	
		<p>病院が所属する神戸圏域は、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸赤十字病院、神戸大学医学部附属病院などの高度急性期病院が多く存在し、兵庫県全域から患者が集まっています。そのような状況である一方、高度急性期病院での治療後に必要な、回復期機能を担う病院が少ないと認識しています。</p> <p>当院は、地域包括ケア病床及び回復期リハビリテーション病棟を持つことにより2次、3次救急病院などとの連携を強化し、高度急性期病院での治療終了後の患者を迅速に受け入れ適切に治療、積極的なりハビリテーションする体制を整備します。また在宅療養支援病院として、周辺の在宅患者（介護系施設の入所者等含む）の急変時に緊急入院対応などを行い、病状が安定した後、速やかに地域の先生に治療を引き継ぎます。</p>	
敷地の状況	面 積		
	自己所有予定 の 場 合	取得の状況	取 得 済 ・ 取得交渉中 ・ 未 交 渉
		交渉状況	
	自己所有予定 でない場合	所有者	
使用形態		賃貸借 ・ その他 ( )	
(増築する場合)	他法令解除 の 必 要 性	有 ・ 無 内容 [ ]	
建物の状況 (増築する場合)	構造概要	造	階建 延床面積 m <sup>2</sup>
	所有予定者		
	自己所有予定 でない場合の 使用形態	賃貸借 ・ その他 [ ]	

(2) 施設及び設備に関する事項

増改築内容

棟・階	変更前		変更後		備考 (設備等)
	用途	面積	用途	面積	
3階病棟	予備室	6.34㎡	サブナースステーション	6.34㎡	机、椅子
	サブナースステーション	18.78㎡	302-2号病室 (2床)	18.78㎡	ベッド、床頭台
	302号病室 (4床)	57.73㎡	302号病室 (5床)	57.73㎡	ベッド、床頭台
4階病棟	予備室	23.35㎡	410-2号病室 (2床)	23.35㎡	ベッド、床頭台

(3) 人員に関する事項

人 員 配 置 計 画									
職 名	必 要 数		予 定 数	確 保 済 人 員	職 名	必 要 数		予 定 数	確 保 済 人 員
	前	後				前	後		
医 師	7.93	8.25	9	10	薬 剤 師	2	2	2	2.7
看 護 師	35	38	40	42.8	栄 養 士	1	1	2	2.4
准 看 護 師			2	2.6	放射線技師	/		3	3.7
看護補助者	—	—	6	6.5	調 理 師	/		2	2
臨床(衛生)検査技師	/		3	3	事 務 員	/		15	16.8
理学療法士	/		18	18.9	そ の 他	/		10	14.6
作業療法士	/		6	6	計	/		118	132

(4) 人員算定根拠 (計算式)

【必要数】

医師、看護師、薬剤師は医療法上の計算に基づき計算した。

A 1日平均入院患者数：100名

B 1日平均外来患者数：80名 (耳鼻咽喉科・眼科を除く)

C 1日平均外来患者数：20名 (耳鼻咽喉科・眼科)

D 1日平均外来処方箋枚数：0枚

医師

$$(A + B/2.5 + C/5 - 52) / 16 + 3 = 8.25 \text{名}$$

看護師

$$A/3 + (B+C) / 30 = 38 \text{名}$$

薬剤師

$$A/70 + D/75 = 2 \text{名}$$

(5) 関係者との協議に関する事項

関係者	協議状況
地元医師会	平成29年2月24日付けにて増床に関する意見書を頂いた。(別紙参照)
市保健医療審議会 医療専門分科会	平成29年度開催の神戸市保健医療審議会の医療専門分科会で審議予定。
その他	特に無し。

注) 地元医師会、医療専門分科会については、意見書等を添付すること。

## 増床に関する意見書

神戸平成病院

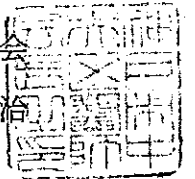
院長 日高 昭斉 様

この度神戸平成病院が神戸市より5床の増床整備計画の承認を受けた経緯を説明いただき、中央区医師会理事会におきまして協議させていただきました。

神戸平成病院は地域医療を担う病院としてすでに多くの実績をあげられています。今回の増床で今まで以上に地域連携に貢献されますことは大変喜ばしいことであり、今後とも近隣の医療機関との連携を密にして地域医療に貢献して頂くようお願い致します。

平成29年2月24日

神戸市中央区医師会  
会長 林 省治



新規開設又は増床を行おうとする病院の医療システム構築に関する申立書

病院名	神戸平成病院		所在地	兵庫県神戸市中央区上筒井通6丁目2番43号		
電話番号	(078) 232-7519	二次医療圏域名	神戸市	保健所名	神戸市保健所	

1. 病院の特色（提供しようとする医療の内容）

(1) 医療の分野について（対象患者、診療科目等について）

・内科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病内科、外科、耳鼻咽喉科、放射線科、眼科、整形外科、婦人科、リハビリテーション科の入院患者、外来患者と健診事業（人間ドック、企業健診）を考えております。外来患者や在宅で療養している患者、介護保険施設等へ入所している方々の急性疾患への対応並びに、高度急性期病院から治療終了後に受入れ、適切な治療と積極的なリハビリテーションを行ないます。

(2) 医療の専門性について（設備・医療スタッフ等についても記入すること。）

・医療設備は、CT、MRI、マンモグラフィ、内視鏡、エコーなどを備えています。医療スタッフについては、専門医（呼吸器内科、消化器内視鏡、放射線科等）をはじめ、看護職員については、10対1を目標に配置します。また積極的なリハビリテーションを実施するために、リハビリテーションスタッフは約50人を目標に配置します。その他コメディカルも多数配置します。

2. 当該診療圏域の状況

(1) 対象に考えている診療圏について

二次医療圏域名	区名
神戸市	中央区

(2) 患者の特色及び医療ニーズについて

・病院が所属する2次医療圏域は、大規模な大学病院や医療センター等が多く存在し、兵庫県全域から患者が集まってきています。そのような状況である一方、高度急性期医療終了後の患者が治療終了後に必要な、高機能な長期急性期医療や回復期リハビリテーション医療を提供する病院が少ないと認識しております。そのことからニーズは高いと考えております。高度急性期から治療が残った患者や、在宅等からの急性期治療が必要な患者を受け入れるので、中等から重度の患者を受け入れる病院であると考えます。また、積極的なリハビリテーションを受ける必要がある患者も受け入れるので介護度も高い特色があると考えます。

(3) 既存の医療機関について、（特に、提供しようとする医療が同じものについて）

① 病院の状況について

名称	病床数	診療科目	役割分担等についての方策	備考
春日野会病院	54	内科、糖尿病内科、消化器内科、整形外科、リハビリテーション科	障害入院の施設基準をもつ病院なので対象者の退院先としてお願いする。	
西記念ポートアイランドリハビリテーション病院	150	リハビリテーション科、内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、放射線科、歯科	療養機能を持つ病院の為、当院から退院する患者を受け入れていただく。	



神戸マリナーズ厚生会 病院	199	内科、消化器内科、 循環器内科、外科、 消化器外科、脳神経 外科、整形外科、婦 人科、リハビリテー ション科、放射線 科、麻酔科	高度急性期病院から在宅復帰で きない患者様を協力して受け入 れる。	
一般財団法人神戸マリ ナーズ厚生会ポートア 일랜드病院	212	内科、外科、整形外 科、脳神経外科、皮 膚科、心療内科、泌 尿器科、消化器内 科、循環器内科、放 射線科、リハビリ テーション科、人工 透析内科	高度急性期病院から在宅復帰で きない患者様を協力して受け入 れる。	
神戸博愛病院	120	内科、外科、整形外 科、児童精神科、リ ハビリテーション 科、皮膚科、放射線 科	療養機能を持つ病院の為、当院 から退院する患者を受け入れて いただく。	

② 診療所の状況について

・なし

(4) 対象に考えている患者の推定数及び将来予測について

・ポストアキュート、サブアキュートの患者を積極的に受け入れ、適切な治療と質の高いリハビリテーションにより早期在宅復帰を目指します。また95%前後の稼働率を維持します。

### 3. 医療のシステム化

#### (1) 取り組みたいこと又は、取り組んでいることについて

- ・神戸市立医療センター中央市民病院との病病連携及び呼吸器内科との呼吸リハビリテーションプログラムの実施。
- ・電子カルテ化。（平成29年度稼働予定）

#### (2) 医療機関との連携

医療機関名	内容	具体例	医療機関名	内容	具体例
神戸市立医療センター中央市民病院	①③⑤	患者の受入れ	宮代眼科	①⑦	白内障手術
神鋼記念病院	①③⑤⑦	患者の受入れ、MRI検査	風間耳鼻咽喉科	①⑦	耳鼻科手術
神戸労災病院	①③⑤	患者の受入れ	岩本診療所	①②	在宅への相互応援
吉田アーク病院	①⑤⑦	MRI検査	近隣診療所	①	
李内科クリニック	①⑤	内視鏡、CT、MRI	新神戸ドック健診クリニック	①⑤⑦	MRI検査

〈注〉内容には、次のうちから該当するものの番号を記入すること。

- ①患者の紹介 ②連絡会の開催 ③後方病院、三次医療を受けもつ病院等への搬送
- ④共同症例検討会等の開催 ⑤検査の受託と委託 ⑥心電図の解折等診療情報の援助
- ⑦高額医療機器の利用 ⑧オープン病院的な運営 ⑨その他

#### (3) 医療機関以外との連携

機関名	連携の内容	備考
日本郵政グループ	人間ドックの受託	
介護老人保健施設ヴィラ光陽	退院先	

〈注〉医療機関以外としては、社会福祉事務所、老人保健施設、社会福祉施設

（老人関係、精神関係、身障関係）等が考えられる。

#### (4) 地域保健医療活動等への参加（住民の健康管理等）

- ・医師会予防接種、看護フェア等における健康相談及び簡易な検査の実施。
- ・兵庫県広域災害・救急医療情報システムへの参加。
- ・地域交流祭の実施（リハビリテーション体験、血圧測定、健康相談等）。

### 4. その他の特記事項

- ・特になし。

## 開設に要する資金

資金計画

(単位：千円)

項 目	所 要 額	自己資金	借 入 金			備 考
土地購入費	0	0				
設計管理費	0	0				
建物建設費	0	0				
医療機器購入費	670	670				
什器備品購入費	1,697	1,697				
保証金	0	0				
諸税	0	0				
開設時運転資金	0	0				
その他費用	改修工事費	3,564	3,564			
計	5,931	5,931				

返済計画

金融機関名	返済条件				初年度	次年度	3年度	4年度	5年度
	据 置 期 間	償還回数 年回×年	利 率 %		年 月 ~ 年 月	年 月 ~ 年 月	年 月 ~ 年 月	年 月 ~ 年 月	年 月 ~ 年 月
				元本					
				利息					
				元本					
				利息					
				元本					
				利息					
合 計				元本					
				利息					
年度末借入金残額									

## 損益的収支予算書（総括）

（単位：千円）

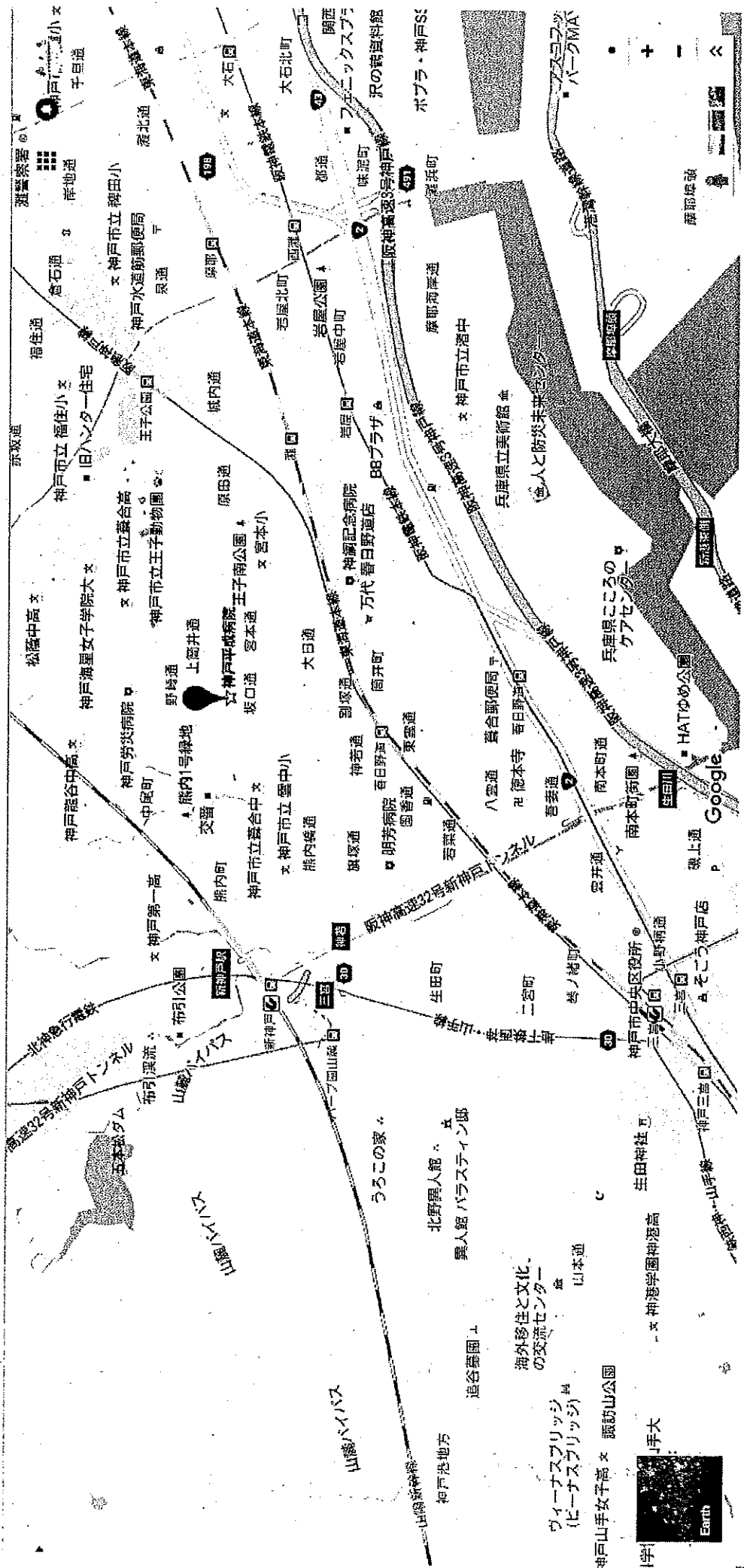
	初年度 (H29年4月～ H30年3月)	次年度 (H30年4月～ H31年3月)	3年度 (H31年4月～ H32年3月)	4年度 (H32年4月～ H33年3月)	5年度 (H33年4月～ H34年3月)
I 医業収益	1,282,367	1,293,112	1,298,485	1,303,858	1,309,231
II 医業費用	1,237,036	1,236,660	1,235,778	1,235,263	1,235,077
医業利益(医業損失)	45,331	56,452	62,707	68,595	74,154
III 医業外収益	18,001	18,001	18,001	18,001	18,001
IV 医業外費用	14,400	14,400	14,400	14,400	14,400
經常利益(經常損失)	48,932	60,053	66,308	72,196	77,755
V 特別利益	0	0	0	0	0
VI 特別損益	0	0	0	0	0
税引前当期利益(税引前当期損失)	48,932	60,053	66,308	72,196	77,755
当期純利益(当期純損失)	48,932	60,053	66,308	72,196	77,755
前期繰越利益(前期繰越損失)	0	48,932	108,985	175,293	247,489
当期未処分利益(当期未処理損失)	48,932	108,985	175,293	247,489	325,244

## 資本的収支予算書

（単位：千円）

		初年度 (H29年4月～ H30年3月)	次年度 (H30年4月～ H31年3月)	3年度 (H31年4月～ H32年3月)	4年度 (H32年4月～ H33年3月)	5年度 (H33年4月～ H34年3月)
資本的支出	建設改良費	0	0	0	0	0
	借入金(元本)償還	0	0	0	0	0
	固定資産購入費その他	5,931	0	0	0	0
	計	5,931	0	0	0	0
財源内訳	内部資金	0	0	0	0	0
	借入金	0	0	0	0	0
	補助金	0	0	0	0	0
	その他	5,931	0	0	0	0
	計	5,931	0	0	0	0
財源不足額		0	0	0	0	0

敷地周辺の見取図



別紙「神戸平成病院の増床事前協議書に関する補足事項」

2. 増床の内容に関する事項より抜粋

<病床数>

旧

- 病床機能区分 急性期95床  
病床機能報告制度上、急性期95床としておりますが、現状は、  
一般病床44床、地域包括ケア病床10床、回復期リハビリテーション病床41床

新（5床増床後）

- 病床機能区分 急性期44床、回復期56床  
※次回の病床機能報告制度にて、急性期44床、回復期56床に変更  
  
一般病床44床、地域包括ケア病床12床、回復期リハビリテーション病床44床

<病床利用内容>

旧

- 15室 41床（回復期リハビリテーション病床）
- 19室 54床（うち一般病床44床、地域包括ケア病床10床）

新（5床増床後）

- 16室 44床（回復期リハビリテーション病床）
- 20室 56床（うち一般病床44床、地域包括ケア病床12床）

<基準看護又は新看護の内容>

13対1と記載しているが、現状の配置及び増床後の配置は共に以下の通り。

【急性期】

- 一般病棟入院基本料13対1のところ、10対1配置

【回復期】

- 地域包括ケア病床入院医療管理料1（13対1）のところ、10対1配置
- 回復期リハビリテーション病棟入院料3（15対1）のところ、13対1配置  
※ 今後、回復期リハビリテーション病棟入院料（13対1）取得予定